

第6回 教育課程編成委員会を実施しました

1. 日時 平成28年3月2日(水) 14:00 ～ 15:00
2. 場所 下関福祉専門学校
3. 参加者 鳥居 紀子 (公益社団法人 山口県介護福祉士会 会長)
河田 洋治 (社会福祉法人 菊水会 次長)
山本 美佐枝 (社会福祉法人 下関市社会福祉協議会 在宅福祉課長)
関谷 豊 (下関福祉専門学校 校長)
田中 満由美 (下関福祉専門学校 教務部長)
松岬 芳江 (下関福祉専門学校 教務課長) 司会
小池 真理子 (下関福祉専門学校 専任教員)
平岡 慶介 (下関福祉専門学校 教務主任) 書記
4. 内容 (1)校長挨拶
(2)委員の出席状況の確認
(3)協議事項
 - 1)今年度の教育目標評価
 - ・教育目標について、到達目標に対する評価
 - 2)卒業生についてのアンケート調査結果の報告
 - ・卒業生の就職先からの評価を把握し、今後の介護福祉士教育に反映させるためにアンケートを実施した。
 - ・平成26年度卒業生(39名)の就職先(24施設)の指導者を対象に、平成27年8月17日～平成27年9月30日の実施期間において回答を依頼。回答数28人、回収率71.8パーセントであった。
 - ・評価は「適切である」「ほぼ適切である」「やや不適切である」「不適切である」の四択に特記事項(自由記述)を設けた。
 - ・全体を通して、「適切」「ほぼ適切」が「やや不適切」「不適切」よりも上回る結果となった。
 - ・但し、就職して5ヶ月しか経過していない(知識は学んだが実践できない)ことや、緊急時の対応に不安があるなど、経験が少ないためにできていないと評価される部分も垣間見えた。
 - ・様式について、抽象的な表現が多くまた体験できていないと回答があったことから、回答項目を増やしたり、卒後1～2年経過した卒業生を対象にした調査をすることも検討していきたい。
- (4)各委員からの意見要望
 - ・介護福祉士のセミナー参加者の服装や身だしなみが悪い。その職種の質の反映である。
 - ・セミナーなどの各研修は仕事で行くこと、相手に失礼のないようにすること、事業所の代表だという自覚を持つことの指導が必要。
 - ・人材不足かつ指導不足で、人によって施設によつての差は大きい。
 - ・新たな参入業者が多く、若い介護福祉士が重責を負っているケースも少なくなく、身体的精神的にダメージが大きい。
 - ・父母が介護福祉士、または祖父母が介護を受けた等の経験が介護福祉士を目指すきっかけになる。
- (5)次回開催の日程について
平成28年9月ごろの予定